

第一学年 算数科 学習指導案

指導者

1. 日 時 令和年7年9月29日(月)第2校時(9:40~10:25)

2. 学年・組 1年5組(36名) 1年5組教室

3. 単元名 「どちらがおおい」

4. 単元目標

体積の比較などの活動を通して、体積とその測定についての基礎的な意味を理解し、身の回りにあるものの体積について任意単位などにより比較する力を養うとともに、体積についての感覚を豊かにし、日常生活に活用しようとする態度を養う。

5. 評価規準

【知・技】体積についての基礎的な意味や、保存性、比較の方法、任意単位による測定の仕方を理解し、体積についての基礎的な感覚を身につけ、直接比較や間接比較、任意単位による測定などによって、身の回りに入る入れ物に入る水の体積を比べることができる。

【思・判・表】身の回りに入る入れ物に入る水の体積に着目して、直接比較や間接比較、任意単位による体積の比べ方を考えたり、任意単位により体積を数値で表したりしている。

【態度】身の回りに入る入れ物に入る水の体積に関心をもち、比較の方法を工夫した過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

6. 単元について

(1) 児童について

本学級の児童は、全体的に算数の授業に対して積極的に取り組んでいる。しかし、積極的に発言をする子どももいれば、そうでない子どもも一定数いる。ペアワークを取り入れることで、自分の意見と友だちの意見を確認でき、自信に繋がれると考える。また、1人1人が自分の考えをしっかりとって授業に取り組めることが期待される。特に今回の単元である「どちらがおおい」では、子どもたちが発言を積極的に行うことが予想される。そのため、上手く子どもたちの発言を整理し、良い学びに繋がりたい。

(2) 教材について

本単元では、長さで学習したことを基に、身の回りに入る入れ物に入る水の体積に着目し、体積の比べ方を考え、理解し、体積を直接比較、間接比較の方法で比べたり、コップなどを任意単位として用いて体積を数値化して表したりする力を育てる。身の回りのものの特徴に着目し、量の大きさの比べ方を見いだすことについては、第5単元「どちらがながい」で、身の回りに入るものの長さに着目し、長さを端を揃えて並べたり重ねたりして比べたり(直接比較)、紙テープに写し取って比べたり(間接比較)、指や鉛筆などを任意単位として用いて長さを「～のいくつ分」と数値化して表したり(任意単位による測定)した。これらの既習の長さの比べ方や数による表し方を基に、体積の比べ方や数による表し方を考えることになる。

(3) 指導にあたって

指導にあたっては、具体的な場面の目的に照らし合わせ、体積の比べ方を見いださせていくことが大切である。指導の際には、具体的を使った操作や活動を重視し、身の回りに入る入れ物に入る体積に着目して、日常生活における体積の比べ方を考えたり、比べ方を用いたりさせる。このような経験を通して、日常生活での事象について、測定を用いて処理することに関心をもち、算数の学ぶよさを実感できるようにする。

7. 単元計画 (全9時間)

時間	学習活動	評価規準と評価方法
1 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・水を形状の異なる容器に入れても、体積が変わらないことを確認する。 ・形の異なる2つの容器に入る水の体積を比べる方法を考える。 ・直接比較の方法で体積を比べる。 	<p>【知・技】体積の直接比較の方法を理解し、体積を直接比較の方法で比べることができる。</p> <p>【態度】身の回りにおける入れ物に入る水の体積に関心を持ち、比較の方法を工夫しようとしている。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの容器に入る水の体積の大きさを比べる方法を考える。 ・間接比較の方法で体積を比べる。 	<p>【知・技】直接比較が難しい場合は、媒介物を用いた間接比較によって比べられることを理解し、比べることができる。</p> <p>【思・判・表】間接比較で体積が比べられる理由を考え、説明している。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・水の体積を数で比べる方法を考える。 ・容器に入っている水の体積を、コップを単位として「いくつ分」で表す。 ・長さの学習を振り返り、任意単位で比較するよさを確認する。 	<p>【知・技】任意単位による体積の測定方法を理解し、体積を数値化して表したり、体積を比べたりすることができる。</p> <p>【思・判・表】長さの学習を基に、体積も数値化して表すとよいことに気づき、その方法を考え、言葉や具体物を用いて説明している。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・任意単位による比較の方法で、身の回りのいろいろな入れ物に入る水の体積を比べる。 	<p>【知・技】任意単位で体積を数値化して表したり、体積を比べたりすることが、確実にできる。</p> <p>【態度】任意単位で体積を数値化して表すことによさを感じ、今後の生活に生かそうとしている。</p>

9. 本時の目標 (1/4)

身の回りにあるものの体積に関心を持ち、直接比較の方法で比べることができる。

10. 本時の展開

学習活動	評価と支援 (○)
<p>1. 水を形状の異なる容器に入れても、体積が変わらないことを確認する。</p> <p>2. めあてを確認する。</p>	<p>○高さが異なるからといって水の量が増えたり、減ったりしないことを意識させる。</p>
<p>③め ④あと⑤いにはいるみずは、どちらがおおいか、くらべかたを考えよう。</p>	
<p>3. ④あと⑤いのどちらが多いか予想させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・④あは太いから多く入りそう。 ・⑤いは背が高いから多く入りそう。 <p>4. 比べ方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・④あの水を⑤いの容器に入れて、比べる。 <p>5. 水の体積を直接比較で比べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・④あを⑤いに入れると、水がこぼれたから④あが多い。 ・⑤いを④あ入れると、水がまだ入るから⑤いが多い。 <p>6. まとめる</p> <p>どちらがおおいかは、かたほうにみずをいれ、もうかたほうにうつしてくらべるとわかる。</p>	<p>○2つだけで比べられる方法を考えさせる。</p> <p>【態度】身の回りにある入れ物に入る水の体積に関心を持ち、比較の方法を工夫しようとしている。</p> <p>【知・技】体積の直接比較の方法を理解し、体積を直接比較の方法で比べることができる。</p>

どちらがおおい

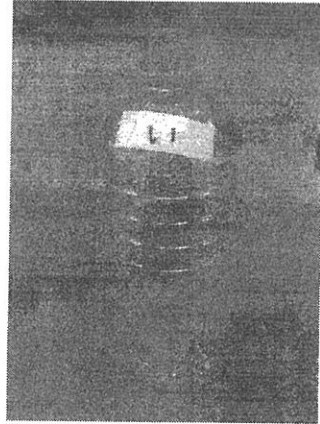
なまえ()

④ ③と②にはいるみずは、どちらがおおいか、くらべかたをかんがえよう。

◎どちらがおおいでしょうか？



()

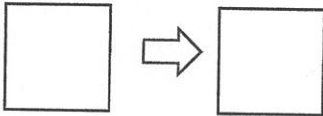
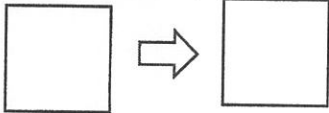


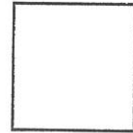
()

(りゆう)

(くらべてみよう)

どうなった？





がおおい

⑤
